

## II 神奈川大学人文学会五〇年史に代えて

'03—'04年度人文学会常任委員会（編）

今回人文学会五〇周年という節目の時に、その足跡を明らかにする資料を完全な形で整えることができなかつた。一つはもちろん私どもの資料収集能力の不足が原因であるが、資料そのものが既に散逸してしまつていていることもあつた。かき集めることができた範囲内で辿れた足跡（三五周年以降）については下に掲載した。

ところで手に入れることができた資料からすると、五〇年前の人文学会設立時に立ち会われた方々は現在の神奈川大学にはおられないし、また設立当時の雰囲気を知つておられる方々もわずか二、三名になつてしまつたと思われる。

そこで多くの（特に若い）会員の方々に人文学会設立当時の事情あるいは雰囲気と言つたものを知つていただくために、一〇周年時の当時の委員長（現職名・会長）草薙正夫先生による「十年の回顧」（一九六三年、『人文研究』第二四集）、二〇周年時の山本新先生による「二十年をかえりみて」（一九七三年、『人文研究』第五五集）および

三五周年（『人文研究』第一〇〇集記念、一九八八年）時に七人の先生方からいただいたお言葉の中から掲載の許可が得られた山田操名誉教授と大林文彦先生の文章および関連する人文学会の活動記録を再録することにした。やや安易なやり方のようにも思われるが、将来方が一に「原点に返る」ような事態が発生したときにぜひ参考していただきたいと思う。

最後に三五周年（『人文研究』第一〇〇集）記念号の再録を承諾して下さった当時の委員長鈴木修一外国語学部教授、山田操名誉教授および大林文彦外国語学部教授に心から御礼申し上げます。

また新たにこの特集号のために原稿を快諾して下さった近藤正栄元学長補佐、および橋本侃外国語学部教授に心からの御礼を申し上げます。（文責 三星）